

人力車

二〇〇九年十一月二十二日(日)

式典 ● 十二時〜来賓乗車(直方駅前)

記念講演 ● 十三時〜十五時十五分

(ユメニテイのおがた小ホール)
資料代 五百円

ふるる里を

● 講演「和泉要助の功績」

講師 斎藤俊彦氏

● トーク「現代に蘇る人力車」

斎藤俊彦氏

舌間信夫氏

岡田敏治氏

山田祥平氏

試乗会 ● 十五時三十分〜

● 応募当選者二十組

乗車会 ● 二十三日(月・祝)十時〜

● 一人一回五百円

走る。

人力車の発明者

いずみようすけ

和泉要助

● 生誕百八〇年記念



文政十二年(1829年)
十一月二十五日

直方市大字中泉生

人力車は明治二年(1869年)、

和泉要助が西洋馬車にヒントを

得て考案したもので、翌明治二年

に東京府の営業許可を得て開業

すると、急速に全国に普及した

近代日本を象徴する乗り物です。



お問い合わせ

事務局(佐藤)

0949(26)2697

090(5920)0154(中村)

試乗会応募申込

官製はがき裏面に住所、氏名、
年齢連絡先をご記入の上、左記
住所までご応募ください。
尚、発表は発送をもって替えさ
せていただきます。

〒822-0003

直方市上頓野3053-12

文化連盟事務局(佐藤)

「人力車試乗会」係

人力車、 ふる里を 走る。

いづみようすけ
和泉要助
生誕百八〇年記念



たくさんの人力車が並ぶ直方駅 大正10年(1921)頃

今年は、直方出身の人力車発明者、 和泉要助生誕180年、人力車発明140年の記念の年です。

人力車は明治2年(1869年)直方市大字中泉に生まれた和泉要助(いづみようすけ)が西洋馬車にヒントを得て考案したもので、翌、明治3年に東京府の営業許可を得て開業すると、急速に全国に普及した近代日本を象徴する乗り物です。

(「北九州いのちのたび博物館」人力車展示説明文から引用)

今年(2009年)はその人力車の発明者である直方の歴史的人物、和泉要助の生誕180年(文政12年(1829年)11月25日生)であり人力車発明140年でもあります。

現在、歴史的なまちづくりや、文化活動の盛んな全国の都市では多くの人力車をみかけます。この要助生誕180年、人力車誕生140年の節目の年に、直方文化連盟ではその功績を讃え、式典と人力車乗車会及び記念講演、トークを行います。



直方の日若座(現、福岡ひびき信用金庫) 左に人力車と車夫



現、明治町野村燃料店 左に人力車が走って来るのが確認できる

齊藤俊彦

1929年(昭和4年)、熊本県に生まれる。熊本大学法文学部卒業。NHK勤務を経て、近代道路交通史研究。文学博士。現在、東京交通短期大学講師。著書

『人力車』

(クオリア、1979。昭和54年度交通図書賞受賞)

『轍の文化史』

(ダイヤモンド社、1992。平成5年度自動車工業史・中尾奨学金受賞。平成6年度国際交通安全学会賞受賞)

舌間信夫

1927年生まれ。

明専(現・九州工業大学)を卒業して教職に入り、退職後は、郷土史の研究と詩作に専念している。

郷土史関係では、「直方むかしばなし」、「直方碑ものがたり」、「ふるさと直方人物史」、「直方歴史ものがたり」、「続直方歴史ものがたり」、「直方文学史」、などを執筆。詩関係では、詩誌「新詩人」、「匈奴(ふんぬ)」を経て、現在、「匈奴の森」を主宰している。

日本現代詩人会会員。九州文学同人。

岡田敏治

昭和44年三菱重工造船所勤務。

昭和51年飛騨高山の車屋に弟子入り、10月より地元長崎で開業。

映画「長崎ぶらぶら節」で車夫として出演。人力稼業で右股関節故障、平成7年より施療の勉強、平成10年より施療院スタート。現在通常の人力車曳きを引退し、療術院に専念。

山田祥平

1978年5月5日子どもの日東京は下町、墨田区に生まれ、京都の大学に入り人力車に出逢う。休学までして6年間はまる。大学卒業が決まり、内定をもらっていた会社に応援を受け、京都から東京まで人力車で旅をするという夢を叶える。ゴールと共に内定先に就職するも、人力車への夢は捨てられず、4ヶ月で退社。人力車における観光以外の新しい可能性を模索してたくさんの人に支えられながら、不器用にもまっすくに、日々成長を続けております。(本人ホームページより抜粋)